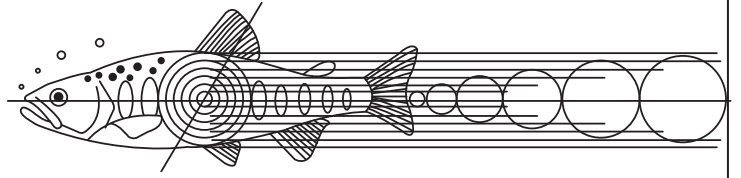


news

長良川市民学習会ニュース



2017/12.2-3

開門シンポジウム

No.25

2017年11月2日

表紙 カワヨシノボリ (向井撮影) 1	内ヶ谷ダム工事は進んでいました 8
付度 (そんたく) 政治は続くのか? / 活動報告 2	やっぱり徳山ダム導水路はいらない 10
岐阜県にはどんな魚がいるのか 4	導水路は撤退するしかない 10
図鑑を手に川へ 魚に会いに行こう 6	事務局より 11
参加しました! 「うなぎ目線で川・海しらべ」 7	団体紹介「長良川水系・水を守る会」 12

長良川を放射能で汚してはならない! 私たちは、原発の再稼働に反対します。

忖度（そんたく）政治は続くのか

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

モリ・カケ疑惑隠蔽選挙は与党の圧勝で終わりましたが、モリ・カケのみそぎはご免です。官邸主導の政治と言っても、実質憲法改正の安保法制のゴリ押し、お友達への忖度行政、原発再稼働の加速化など多くの問題はそのまま引きずられています。モリ・カケの疑惑追及と原発ゼロを唱えた希望の党も、安保法案賛成のみ明確になったものの、他の主張は雲散霧消。それどころか、野党第一党の民進党を三分五裂状態にした、ミサイル(?)自爆装置(?)が投げ込まれました。小選挙区のマジックは半数近い民意を切り捨てることによって与党圧勝に導きました。一方、経済は世界的成長期を謳歌しており、大企業のもうけは膨大なものになっています。株価も29年ぶりの高値を付けています。しかし、非正規雇用のみ増大し、一向に庶民のところには金は回ってきません。国の借金も1074兆円、5四半期連続の上昇です。国民1人あたり845万円。アベノミクス、経済好調との宣伝でも矛盾はますます大きくなって行きます。

新政治地図の元での、木曾川水系導水路計画、長良川河口堰開門課題など、長良川を取り巻く情勢が気にかかるどころです。忖度の好きな官僚達も、民主党政権では、八ッ場ダム潰しの包囲網を作り、国土交通大臣に建設のゴーサインを出させてしまいました。導水路計画に対しては、岐阜市、岐阜県は国交省を忖度して、疑問の立場から必要論に転換しています。ただし、環境の事をただと、お上任せで、自分の頭は空っぽの地方官僚達です。もともと忖度に中身はありませんが。選挙結果を受けて導水路に対する特別な政治的動きは無いものと思われませんが、官僚達は虎視眈々と機会を窺っていることには変わりありません。私たちの活動が大きなブレーキになっていることは疑いありません。

長良川河口堰の開門調査に向けた、国際シンポジウムが、来る12月、2-3日に岐阜市で開催されます。汽水域とその生態系を破壊する河口堰のあるのは、世界広しといえ、オランダ、韓国、日本だけのようです。文字通り、長良川河口堰が世界で最後、20世紀の遺物となっています。これから、開放に向けた世界でのドミノ倒しの開始を宣言しましょう。韓国のナクトンガン河口堰は、所在地の釜山市がすでに解放宣言をしています。近い時期に開放へと向かう、お手本にもなるようです。多くの方々の参加をお待ちしています。

活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤仁

前号発行の7月10日以降の活動報告をします。

内ヶ谷ダム建設は、昨年着工となりましたが、建設推進の積極的な県民の声があるでもなく「何のための建設?」と疑問を抱えたままの事業です。2011年の「検証の場」では事業費344億円、B/C(効果/費用)=1.1と発表され、限りなく意義のない事業であることを示しました。2014年に事業費を増額し、420億円としたので、「こ



れではB/C<1.0になるのでは」と、今年5月26日に行った岐阜県との交渉で追及しましたが、「工期の2年短縮」「流域の住家の戸数見直し」などの数字をいじってB/C=1.1のままとし、事業の意義を繕っています。よみがえれ長良川実行委員会は工事現場の見学を岐阜県に申し入れ、工事事務所の案内で7月20日に見学しました。参加者は15名。人を寄せ付けなかった自然豊かな深い溪谷の景色は、2023年完成を目指す工事で無残に剥ぎ取られていました。（関連P8,9）

この一年、よみがえれ長良川実行委員会は長良川の魚や歴史などをテーマに市民学習会を開催しています。第3回は8月19日「岐阜の魚と長良川の今」と題して開催しました。この学習会は、7月に発行された向井貴彦先生編著の図鑑「岐阜県の魚類」に関する講演がメインで、幅広い世代から関心もたれ、会場は満員で好評でした。（関連P4-7）

また、9月16日名古屋市の「環境デーなごや2017」にもブースを出展し長良川河口堰の開門をアピールしました。今年は、クイズ「なごやの水と長良川河口堰」を企画したところ、雨にもかかわらず多くの市民がブースを訪れ長良川河口堰問題の議論で盛りあがりしました。



2017/9/16 環境デーなごや ブース出展

シール投票によるクイズが大好評でした。回答の結果は、以下のとおり。（回答者には事前説明なし）

問1. 現在、名古屋市民の家庭の一人一日水道使用量は、平均どれくらいでしょう？

約100リットル-4名 約250リットル-48名 約500リットル-59名

問2. 名古屋市民の水道水はどこから引いているのでしょうか？（いくつ選んでもよいですよ）

地下水-1名 堀川-0 庄内川-0 木曾川-111名 長良川-0 揖斐川-0 その他-0

問3. 長良川河口堰建設に名古屋市はどれだけ負担しているのでしょうか？

0円-2名 利子を含めて約55億円-13名 利子を含めて約155億円-94名 ※ 正解はアンダーラインの項目

問4. 長良川河口堰のゲートが開いたことがあるのでしょうか？

これまで開いたことはない-26名 洪水の時は開く-72名 環境をよくするために上流に潮を入れることがある-14名



しかし、残念ながら徳山ダム導水路中止を目指す活動も長良川河口堰開門を目指す活動も情勢を切り開く状況にはなっていません。いま当会は導水路問題については、本年9月に発行された導水路裁判報告書「やっぱり徳山ダム導水路はいらない」を普及し（関連P8.9）、市民議論を高めながら市民とともに導水路の計画ルート視察するツアーを来年春に計画しています。

また、長良川河口堰開門問題については、ナクトンガン河口堰の開門にむけた取り組みを進めるNGOの代表や諫早湾排水門開門をめざす有明訴訟弁護団事務局長を招いて「2017開門シンポジウム」を、12月2日（土）に長良川国際会議場において開催します。開門を目指す3地域の取り組みについて交流をし、今後の課題や展望を議論したいと思います。翌日の3日（日）は、「河口堰の開門で塩害は発生するのか？」をテーマに河口堰裁判、長良川決壊裁判を担ってきた在間弁護士の解説で現地視察を行います。

多くの皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

岐阜県にはどんな魚がいるのか

—岐阜県の全魚種に出会うために—

向井貴彦（岐阜大学）

8月19日（土）にぎふメディアコスモスにおいて、講演「岐阜県の魚類」と「長良川下流域環境観察会」報告が行われました。7月に発刊された図鑑「岐阜県の魚類」の編著者である向井貴彦さんから話が聞けるということで、10代から80代まで幅広い年代の市民約80名が参加し、本が作られるまでの過程や、魚を分類する際に注意したことなど、編著者の想いや興味深いお話を聞くことができました。



◆出版のきっかけ

この本の出版のきっかけは、岐阜県のレッドデータブック改定に関わったことです。「岐阜県で絶滅の恐れのある生き物」をきちんと調べるには、全部の生物の状況が分からないといけません。その地域に何がいるか分からなければ、どれが絶滅危惧種かも分からないわけです。これまで調べた結果110種類いることが分かりました。岐阜新聞にこの本の出版の相談をしたのは2010年頃でしたが、7年ほどかかってようやく出版できました。出版後、Amazonの魚類学関係の書籍売上ランキングで一瞬だったけれど1位になったこともありました（笑）。

◆最初に枠組みづくり

まずやったことは枠組みづくりです。岐阜県博物館にあった2001年の岐阜県の淡水魚のリストでは101種と書いてありましたが、根拠がはっきりしないものもありました。現場を全て見て調査すべきですがそれは不可能なので、今までに何十年も様々な調査が行なわれ報告されている文献を見直し整理することから始めました。学会誌などで発表された論文や各種書籍、新聞記事、環境庁が行った緑の国勢調査、建設省の河口堰調査報告書、後藤宮子先生の登り落ち調査の資料などを元に156種類の魚の名前がリストアップされました。その中には明らかに間違いであるとわかったものが18種類、岐阜県外の記録と考えられるものが31種類、本に名前はあったが証拠のないものが14種類。それらを除くと93種類が残りました。内訳は、在来種が71種、ブラックバスのような外国からきたもの13種、岐阜県には元々いなかった国内外来種9種です。例えば、岐阜の魚で有名なサツキマスはその名前がついたのは1980年代。それ以前にはカワマスと呼ばれていたり琵琶湖のビワマスと同じ種類と考えられたこともあります。そうした時代にはカワマスやビワマスという名前で記録されています。しかし、どちらも今ではサツキマスとは別の魚の和名として使われているので、魚種名のリストから省きました。長良川の魚として記録されていたものの中には、海に近い三重県や愛知県のものも入っていましたが、それらも岐阜県産魚類のリストから除きました。フナは日本中にいろんな種類がありますが、岐阜にいるのは何かよく分かっていませんでした。そのため、ナガブナとかキンブナとかニゴロブナなどの名前で記録されていましたが、その中から妥当と思われるものを選びました。

過去の文献のリスト、岐阜県博物館の標本をもとに、証拠のある93種のリストが出来上がりました。これで岐阜県の魚種リストの枠組みができたので、以降は珍しい魚が見つかった時に新発見かどうか判断がつくよ

うになりました。

◆博物館の標本の整理

当時、岐阜県博物館にはたくさんの魚の標本がありましたが、ホルマリンが蒸発してせつかくの標本が干からびてしまうなど保存状態はあまり良くありませんでした。大切な標本を整理保存するため、2012年度から「岐阜県の魚研究会」という博物館のサポーター活動をやらせてもらうことになりました。この活動には小学生、中学生、高校生など魚に興味を持つ人たちが参加して、3年間で標本の整理からデータベースに登録するまで行いました。最初400くらいの標本がデータベースに登録されていましたが、未整理のものも整理して、登録されている標本数が4000くらいになりました。これによって、岐阜県博物館には岐阜県の全種の魚の標本が揃い、アクセスできるようになっています。47都道府県のうちでもその地域の魚が全部揃っている博物館は数少ないと思います。ちなみに岐阜県博物館の学芸員で動物関係は一人。虫から魚、哺乳類まで全て担当し、環境学習などまでやっています。標本整理までできるわけがありません。サポーター活動をしないと成り立たない実情です。こうした活動を受け入れてやらせていただけたことは非常にありがたかったです。

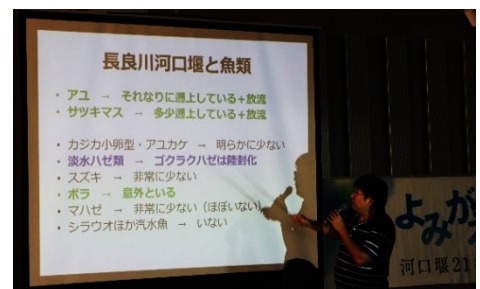
◆外来種を含めて110種に

その後の調査で新しく発見されたものは、ほとんどが外来種でした。それらを加えることで岐阜県産魚類は110種になりましたが、実質的には文献整理の段階で岐阜県の魚はほとんど分かっていたこととなります。過去の多くの人たちの調査研究の成果が大変貴重であったことが再認識されました。いると言われていても証拠がなかった外来種の一つにソウギョがあります。羽島の大橋さんからサツキマス漁で獲れた1m以上、重さ18キロのものをいただきホルマリン漬けの標本にすることができました。また、外来種には安く手に入れた熱帯魚が大きくなって捨てられるケースが多いです。これからも外来種など珍しい魚を見つけたらぜひ知らせてください。



◆長良川河口堰と魚たち

羽島で学校の先生が2mくらいのエイのようなものを目撃されたという話があります。「ハッシー」と呼ばれる怪しい未確認生物の情報ですが、目撃されたのは河口堰ができる前の話です。もしかしたら、河口堰が無い時代は海から大型魚が上がってくることがあったのかもしれませんが。河口堰ができてから、海から上ってくる魚は明らかに減りました。アユは昔に比べれば減ったかもしれないけれど結構上ってきますし、放流もしていますので沢山います。サツキマスも放流が多いです。カジカ類は揖斐川にはいますが長良川では明らかに少なくなっています。ハゼ類もそこそこいますが、かつて海に下っていたものが下るのをやめてしまったものもあります。スズキ、マハゼ、シラウオは長良川にはほとんどいません。長良川環境を考える時、アユやサツキマスが話題になりますが、放流をたくさんしているアユやサツキマスは岐阜県の魚類全体から見ると例外中の例外で、それだけで環境を論ずるのは良くないと思います。



◆川の環境を守るために

魚の環境について言えば河口堰だけが問題なのではありません。川を取り巻く周辺の環境が大きく変わっています。岐阜市の現在と明治時代の地図を比べるとよくわかります。都市化され、水田などの湿地が減り、湿地と川と行き来していた魚類は棲家を失っています。それが長良川の魚影の濃さに現れていると思います。今は田があっても水路さえ人工化され、生き物だけでなく人も近寄り難くなってしまっています。川に近寄らせない、入らせない、見させない。だから川のことわからない、川の変化にも気付かない。魚も住みにくいし人も楽しめない状況です。でも嘆いていても仕方ありません。生き物が満ち溢れていた時代を知る人はどんどん少なくなり、若い人たちはその頃のことを知りません。身の回りがどんな生き物に囲まれていたかを知り、いろいろな生き物がいる環境を残すためにどうしたらいいか？この本が、本当の自然について知り、どうしたら守れるかを考える一つのきっかけになることを願っています。

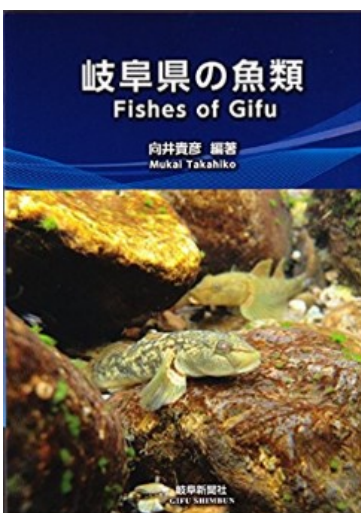
◆表紙の魚にヨシノボリとアジメドジョウ

これらは岐阜に昔からいた在来の魚たちです。そして今も飛騨から東濃、西濃、美濃など県内のほとんどの河川にいて、川遊びをすれば誰でも見て楽しむことのできる魚たちです。食べても美味しいですし、養殖や放流もされていない自然のままの魚です。岐阜県では誰もが身近に見ることができる自然のままの魚たちこそが、「岐阜県の魚類」の表紙にふさわしいと思って選びました。

(まとめ： 田中万寿)

「よみがえれ長良川」Ⅲに参加して

－ 図鑑を手にも川へ魚に会いに行こう － 堀 敏弘(長良川市民学習会)



以前から製作中と聞いていた図鑑「岐阜県の魚類」。何年か前に向井先生にお会いした時に「まだですか？」と請求したことがあります。しかし今回講演を聞き、歴史的な資料や博物館の標本を一つ一つ検証し標本を再生させるといった作業と、自らも川に入り魚を採取して確認し分類していくという仕事。そしてたくさんの方が撮られた写真や文章を整理してまとめていくといった過程を通して、7年ほどかかってやっと出版にこぎつけることができたという経過と内容を聞いて、まあよくも気楽に請求したなという反省が第一の感想でした。

私は自分でもブログに掲載するため、魚の写真を撮影することがあるのですがこれが難しい。捕獲して観察ケースに入れての撮影さえ大変なのに、川の中の自然な姿の撮影は難しく、何枚も撮影してやっと載せられるのが1枚という状態です。これでさえ今回のような図鑑には使えないものです。図鑑に載せられる写真と、そこに様々な研究が加わるわけであるから、時間がかかるのが当然ですね。

参加された皆さんも、こうした大変さは講演を聞いていて感じられたようで、アンケートにも「魚の調べ方がわかった」、「生物に対する姿勢に感動した」、「図鑑を見る上で興味深い話を聞いた」、「岐阜県の魚は鮎

というイメージが変わった」、「川の魚への興味がわいてきた」などの感想がありました。

図鑑を買って見ているだけだと、「岐阜県にはこんな魚がいるのか」とか「この魚の名前は何だろう？」と調べるなどだけで終わりがちだが、今回の講演を聞くことで本の背景にある大切なことやおもしろさが伝わったのだらうと思います。

こうしてできた図鑑「岐阜県の魚類」。この本の大きな意味は、講演の中で話されたように、これでやっと岐阜県の魚の枠組みができた、基準となるものができたということだと思います。発行日である2017年7月12日に、岐阜県でこれまでに確認された魚がここに載っていますよということです。今後この図鑑に載っている魚が見られなくなれば、岐阜県での絶滅危惧種だったり絶滅種となりますし、載っていない魚が見つかれば新種ということになります。

図鑑に載っていない魚を見かけたら連絡下さいとのことでした。これに対し質問にも「標本がなくても写真があれば良いのか」とありました。写真だけではわからない所もあるので、標本があればそれに越したことはないとのことでしたが、川に行けばもしかしたらだれでも発見者になるかもしれないということです。なにかワクワクしますね。

他にも、川の環境の変化についても、魚を通して今後の変化を見る時の基準にもなるわけです。講演の中では遺伝子的なレベルでの種類の違いの話もあり「難しかった」との感想もありましたが、川の環境を守るために難しいことは無く、この図鑑を手にも身近な川に出て魚と出会ってみる。そこが出発点ということでした。この図鑑に載っている在来魚が、過去にいた魚とならないようにしたいものです。

■「岐阜県の魚類」 発行：岐阜新聞社 ■ 当日配布の資料は、市民学習会のHPに掲載されています。

参加しました！ 日本自然保護協会の「うなぎ目線で川・海しらべ」



この調査は、ウナギの遡上を妨げている堰の高さを調べて写真を送るというものです。私は田舎に行く時通る長良川の支流・武儀川を調べました。関市から山県市の境あたりまでは川幅も広く、農業用と思われる堰が多くあります。こんなにあることは今まで気がつきませんでした。高さは数十センチのものがほとんどで、魚の遡上には問題はないようです。山県市に入ると川は山が迫った溪流になります。徳永というところには65年以上前にできたという高さ数メートルの堰があります。ここからはアユやウナギなどは遡上できません。美山漁協はこの堰の上流、下流に毎年アユ、アマゴ、ウナギを放流しています。ウナギは今年、15gくらいのものを950匹放流したそうです。水産庁はウナギの生息環境改善のため、平成28年から5年計画で全国11ヶ所で石倉かごモニタリング調査を始めています。岐阜では美山漁協が参加しています。今年8月の調査で、ナマズやドンコなどに混じって初めてウナギが1匹入り、チップ(ICタグ)をつけて放したそうです。

石倉(いしくら)調査の様子は美山漁協や全国内水面漁業組合連合会のHPで見られます。

(石倉かご：こぶし大の石を水中に積みウナギなどを獲る伝統漁法)

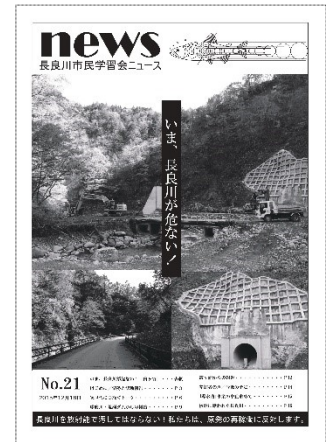
田中万寿(長良川市民学習会)

内ヶ谷ダム工事は進んでいました

粕谷 豊樹（長良川市民学習会）

2017年5月26日（金）11時より長良川市民学習会は岐阜県河川課と今年も交渉の場を持ち ①河口堰の冬季の試験開門 ②木曾川水系導水路事業は不要 ③内ヶ谷ダムの現状について質しました。その中で無用で不要な内ヶ谷ダム工事が進んでいるが県民として工事を確認したいと申し入れをしました。行政の常として前例のない面倒なことはやりたくないのですが武藤事務局長の押しの一手で県も折れて7月20日（木）に現地見学の運びとなりました。

遡ること2年程前2015年11月12日に実は武藤と粕谷（豊）は工事休みの日曜日ゲートをくぐり抜けてダムサイト予定地まで3～4キロの道を歩いて工事の進捗状況を見に行きました。秋の一日でダムサイトは本工事に入る前の本流を迂回させて流すトンネルを完成させていました。（市民学習会NEWS 21号 2015年12月18日の表紙と記事参照）



今回の見学当日は県工事事務所の案内で新しく掘削したトンネルを抜け、内ヶ谷を見渡せる左岸サイトで見学者15名は丁寧な説明を受けました。工事はすでに本体工事を準備中でダムの堰堤接続部の山肌を削る工事と必要となる膨大なセメントを作るプラントの建設が進んでいます。



2008/6/19 内ヶ谷ツアー

費80億円を使って作った（東農西部水幹線事業）の水はどう運用するのか？人口減少の時代にそれでもまだ水不足なのか？ この工事の基幹部分である多治見市の小名田調整配水池を見学し、県の説明を受ける必要があります。

2008年に「長良川水系・水を守る会」の亀崎さんや「板取自然探索・山童」のみなさんに案内をいただいた清らかな亀尾島川の流れはすでにどこにもありません。高齢化がすすむ日本社会で今、県や国の行政が無用・不要で有害なダムではなくもっと他にやる優先課題があるだろうと思いますがまことに残念です。

国と県は今、木曾川水系導水路事業計画をもっています。岐阜県の導水路必要論は渇水時の水の不足を理由に挙げていますが それでは平成16年度から24年度にかけて

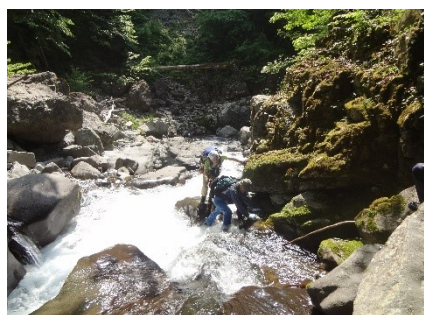
導水路事業については岐阜県揖斐郡（本社 本巣市）にトンネル掘削型枠工事の海外にも事業を拡大する日本有数の企業があることをみなさんご存知ですか？ 私は毎月一回揖斐峡に試験水を取りに行くときこの企業の2つの工場横を通りシールド工法用の巨大な掘削用型枠を眺めますが、県議会議員たちと県と国と地元が何やらひそひそ話しをするのが聞こえます。私の思い過ごしでしょうか？ 民間企業ですが導水路事業と無縁ではなく地下トンネル掘削シールド工法の最先端の技術という観点から、私たちは見学勉強しておくとうれしいと思っています。

当会ホームページ <http://dousui.org/>の「news バックナンバー」で以下の記事が閲覧できます。

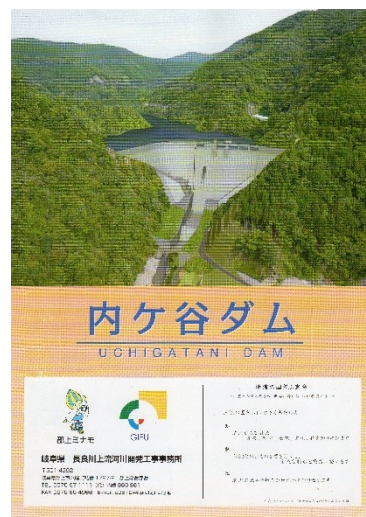
- No.2(2008/6/3) 内ヶ谷ダム(郡上市)の工事が進む
- No.5(2009/3/23) 亀尾島川に内ヶ谷ダムはいらない
- No.10(2009/12/18) 寝た子「内ヶ谷治水ダム」が起きあがった？！
- No.11(2011/5/23) 最近の情勢と内ヶ谷ダム 内ヶ谷ダム再検証-『検討の場』-をめぐる動き
非定量治水への意識の改革を（今本博健）
- No.12(2011/11/21) 岐阜県、内ヶ谷ダム事業「継続」を国交省に報告
- No.21(2015/12/18) 今、長良川が危ない！

また、「長良川水系・水を守る会」のホームページ <http://nagarariver.blog10.fc2.com/>でも内ヶ谷ダム関連の記事、映像がご覧になれます。

2013/5/31 内ヶ谷ツアー
(ダムサイト下流側)



2015/11/12 転流工事現場調査
(ダムサイト上流側)



2023年のダム完成をめざす
建設工事事務所パンフレット

やっぱり徳山ダム導水路はいらない —導水路はいらない！愛知の会が「裁判報告書」を刊行—

導水路はいらない！愛知の会は、2009年に600名余りで愛知県に住民監査請求をしましたが却下されたため名古屋地裁へ原告92名で「導水路事業公金支出差止住民訴訟」を提訴しました。残念ながら、足かけ7年にわたるこの裁判は2016年に上告棄却で終了しました。この報告書は、裁判における原告・住民側と被告・愛知県知事らの主張と立証のポイントを丁寧に記述し、導水路がいかにもムダな事業であるかをわかりやすくまとめ、また2007年の導水路計画決定以降の市民の運動と今後の課題を明らかにしたものです。



●A4サイズ・本文92頁、資料39頁 ●価格：500円 送料200円

申込先：導水路はいらない！愛知の会 加藤伸久

Tel&Fax: 052-811-8069 Mail: ra28745@wd6.so-net.ne.jp

2017/9.13 岐阜新聞

分水嶺

作家の平方浩介さんの著書「日本一のムダ トクヤマダム」のものがたり（燦葉出版社）は作者の故郷で徳山ダムに沈んだ旧徳山村を舞台にした児童文学。鳥獣やもののけを主人公に異界の森への恐れを描く▼物語は徳山の生き物が生息地にダムを造った人間へ仕返しをするように怪奇現象を起こす。その発生要因に人々はダムへの疑問を語り出す。自然破壊、水余り、多大な建設費：▼10年ほど前の出版だが、最近出された報告書はこの作品の「続編」のように思えた。徳山ダムの水を長良川と木曾川に流す木曾川水系連絡導水路の事業負担金支出差止めを求めた訴訟の記録だ▼事業は渇水時の水の確保が目的とされ、原告は「水の需要増を見込んだ想定は根拠がない」としたが敗訴。その訴えは平方さんが物語で挙げたダムへの疑問と重なる▼導水路事業は民主党政権時に凍結されて検証中だ。引いた水の一部を長良川に流して下流で木曾川に移す計画に対し、河口堰による水を使うためという原告の主張は興味深い▼環境社会学者の嘉田由紀子さんは、大きな施設に頼る「遠い水」から周りの「近い水」を生かす暮らしを取り戻す時代と説く。時代の物差しで導水路事業を問い直す必要があるのではないか。

2017 9.13

導水路は撤退するしかない

大牧 富士夫

徳山ダムはできちゃった、村民は追いだされて三十二年ともなる。あのころは、やれ工業用水がない、水道用水不足ともいわれたが、今や水はあまっている。やっとなつてつくった発電所規模も当初計画の半分に満たない半端なことよ。いたずらにためられた溜まり水は臭くなるのは当たり前前の昨今の異常さに、ダム管理所の当事者までが、頬かむりしてだまりこみ、慌ててる。ダムは、得体の知れない膨大な溜まり水。ムダなものをつくったものである。『「日本一の巨大ダム」徳山ダムは、反対運動のハの字もなかった』と、その通りで恥ずかしいが、ムダなものはムダ。もう引き返ししようもないが、ムダなものはムダと、今こそ言わねばならない。

「裁判報告書」は、必要もない徳山ダム建設から導水路を作ろうと巨額の県税が使われようとしている経緯があますことなく書かれている。使うあてのない水のために、徳山ダムが間違っで建設されてしまい、いままた、その水を使うために、ムダをかさねることなどない。どうするか、撤退するしかない。それは、利水者（自治体）が水は要らない、と判断すればいいことで、それは地方自治の本旨にそって当り前のことであると分かり易い。余計な気遣いをして、さらなるムダ遣いをするなどない、一刻も早い決断、撤退は、住民・納税者の負担を軽くすると、三重・川上ダムなどの事例をひいて論じられている。住民敗訴は口惜しいが、違法性を衝いた記録はこれからの住民運動の大きな糧となるだろう。徳山ダム導水路は、やっぱり要らないと納得する。

(徳山ダム離村者)

事務局から

◆ 今年はいろんな意味で激動の一年となりました。身近なことでは父親の死がありました。確かに悲しいことでしたが、家庭内の環境が変化したことにより、お互いの気持ちに通うようになり、そこを乗り越えようとして残った家族が結束するようになったことが何よりうれしいこと

でした。さて、世の中はと言いますと非常に残念なことが多かったように思います。「戦争法」「憲法改悪」「共謀罪」これらのことはもっと慎重に審議すべきことであるにもかかわらず「数と長期政権の奢り」とも感じる決め方は残念でなりません。しかし、このことから学生さんやママパパの方々が政治に興味を持ち始めました。駅頭でビラを配布していると反応があり、少しずつではあるけれども変化しているなあと感じます。政治にはいろんな意見があつて私は良いと思います。自分の意思をもっと伝えていきながら、また他の人や反対の立場の人の意見もしっかり聞いていこうと思います。(2017.10.20 中川 篤)

◆ 超大型台風が来るようです。このところ自然災害が多くて、又なにか起こらなければいいけど・・・と心配です。長良川のすぐ近くに住んでいた私は、大雨や台風の後、父に連れられてよく川の様子を見にいきました。いつもはきれいで穏やかな流れの長良川が、まっ茶色に濁り大きな木やゴミが川筋を失くしたように溢れて、アチコチぶつかりながら堤防に挑みかかるように暴れていて、ドキドキしたことを覚えています。父は魚釣りに行くので川がいつも気になっているようでしたが、私は、いつも手ぬぐいですくって遊んでいるメダカはどうしたかしら？大丈夫かなあ？流されちゃったのかなあ・・・と、そんな心配をしていました。どうかこの台風が大きな被害をもたらさないよう・・・と祈っている選挙投票日前日の私です。(2017. 10. 21 岡久米子)

◆ お昼前、台風一過で晴れ間も出ているのに自宅前の牛屋川の水位が異常に高い。朝方は1 kmほど西の大通りが冠水で通行止め。内水の所為だ。木曾川上流河川事務所のHPには「10月22日 22:06…牧田川支川五日市川の内水排除のため、排水ポンプ車により排水を開始」「10月23日 7:55…大谷川荒川町地先の内水排除のため、排水ポンプ車により排水を開始」とある。昨夜は大垣市の2箇所に避難勧告が出された。危険箇所はわかっているのに必要な対策がとられない。多分国交省はまたぞろ「徳山ダムによる揖斐川の水位低下効果」という数字マジックのPRを出すだろう。だが徳山ダムで膨大なお金を喰った所為で、揖斐川の支派川の治水対策が進まないのが現実である。(2017. 10. 23 近藤ゆり子)

• 台風一過—大雨台風2 1号— [2017-10-23] <http://tokuyamad.exblog.jp/28285618/> 参照

表紙の カワヨシノボリ

【特徴】 全長5 cm程度。岐阜県内ではもっとも普通に見られる河川性のハゼ。色斑の変異は多様で個体差が大きい。オスの第一背鰭は伸長する。ほかのヨシノボリ類に比べて胸鰭条数が少なく(15~17本)、腹面に近い胸鰭軟条の先端が幅広くなっている。色斑で他種(トウヨシノボリなど)と見分けるのはやや難しいが、小型のプラケースなどに入れて胸鰭にピントが合うようにデジカメで撮影すれば、ほぼ確実に同定できる。体のサイズに比べて大型の卵を産み。孵化した子どもは河川で一生を送る。岐阜県での地方名は「ちちこ」や「うるり」と呼ばれることが多い。きれいな川で採ったものはから揚げ、佃煮などにすると美味。

【県内分布】 県内の河川に広く分布する。

図鑑「岐阜県の魚類」P176より



前号から「よみがえれ長良川」実行委員会の参加団体を紹介しています。2番バッターは「長良川水系・水を守る会」にお願いしました。

参加団体紹介 2

長良川水系・水を守る会

亀崎 敬介（事務局）

長良川水系・水を守る会は29年前の1988年に設立されました。長良川河口堰の建設反対運動をはじめ様々な活動に取り組んでまいりました。しかし、ここ近年は10月に「サツキマスの産卵を観る会」を開催するのみの活動となっています。

「サツキマスの産卵を観る会」は1991年に始まり、増水による中止やカメラが壊れたこともありましたが、26年間続いています。同じ事象の観察を長期間続けていくことは、環境の変化を感じ取るようになります。

河口堰の建設、砂防ダムの影響、土砂の供給の変化などサツキマスにとっては苦難の連続です。それでも子孫を残すためにサツキマスは、与えられた環境で最適な場所を探し出して毎年産卵しています。

人も含め生き物たちが快適に暮らしていけるようサツキマスのように長良川の環境がどのように変化しても、しぶとく活動を続けていければと思います。



ブログ <http://nagarariver.blog10.fc2.com/>

ご参加ください！

- 11月4日（土） アユの産卵観察会 16:00～ 岐阜市元浜町地先（長良橋下流 400m 左岸）
- 11月4日5日 水源連総会&現地見学会 大阪・茨木市
- 11月9日（木） 愛知県長良川河口堰最適運用委員会 10:00～ 愛知県三の丸庁舎 8F
- 11月18日（土） いま振り返る・藤前干潟保全の歴史 ～市長として取り組んだ藤前保全～
14:00～ 名古屋港湾会館（地下鉄名港線・名古屋港駅）
- 12月2日（土） 長良川/ナクトンガン/諫早 2017 開門シンポジウム
10:00～16:30 長良川国際会議場
- 12月3日（日） 現場視察 長良川河口堰開門で塩害は発生するか？
10:00 JR 岐阜駅北口西側 出発

2018年

- 2月10日（土） 生物多様性 COP14 報告会（午前）豊橋市民センター
伊勢湾流域圏再生シンポジウム III（午後）豊橋市民センター



発行：長良川市民学習会

<http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁／090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1

- 私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会